

参考

すい臓がんはがんの中でも、生存率が特に低いといわれている。全国で2017年にがんで亡くなった人は男女計373,334人。同年にすい臓がんで亡くなった人は34,224人だった。肺がん、大腸がん、胃がんについて死因の第4位となっている。また、2006年から2008年にがんと診断された人の5年相対生存率は男性59.1%、女性66.0%になり、**すい臓がんの人の5年相対生存率は、男性は7.9%、女性は7.5%と低くなっている**。10年相対生存率は、男性4.6%、女性4.8%（国立がん研究センター「がん登録・統計」）。「現在のところ、すい臓がんの手術は難易度の高い手術といわれている。経験豊富な病院にセカンドオピニオンを求めたり、最終的に手術できないと判断された場合、抗がん剤による全身性化学療法が行われている。」（がん研有明病院引用）

記田さん

余命7ヶ月と云われましたが、身体は衰弱し、ショックよりも、まず現在の苦しさから救って欲しいとだけ考えました。家内は（死を）覚悟していたようです。

蟹田の児童館にいたとき、子どもたちと二輪車をやっていた。子どもたちにお年寄が体験したことを学ばせたかったのです。高齢者の慰問に行くことが目標で、地域の人たちに喜んでもらえるように演技を考えてきました。それが実現する

と、とっても喜ばれ、涙を流す人もいます。先日、蟹田の中学祭

に呼ばれました。その際、花束をいただきました。サプライズでした。とても感激しました。

川嶋さんの書いた本を読んだ。たくさん勇気をもらいました。

そして、友達に紹介してもらい、川嶋さんと出会い、「身体は病

気だが、心は病気ではない。心は健康なんだ。」といわれ、私も「病気さん、ありがとう！ともに歩んでいきましょう。」と、身体は病気だが、心は健康だからね、とすい臓がんに言っています。

支えてくれる人、家族、友達、関わってくださっている人たちに私は希望の星といわれています。だから、つらいときも頑張っ

川嶋さん

て生きます。生きていることに心から感謝して、そして、ときどきカラオケにも行って、腹のそこから歌うことも治療だと思っています。

手術をして、体重74キロから51キロになり、体も心もへロヘロの状態になった。最初は何かをやるということはありませんでした。生活習慣と食生活を

がらりと変えたことと、考え方も前向きに生きようと、生きるんだと強く思いました。それから、病気を忘れることが大事と思っています。記田さんとカラオケを歌っている時、病気のことは忘れていきます。抗がん剤よりも効くのではないか、くらいに思っています。

病気を忘れることは、良くなる秘訣。私は、記田さんから逆に勇気をもらいました。歌って笑い、食事・運動するとか、身体を温める等、健康十か条を唱和して実践していく会を足させました。

緊急対談「がんと共に生きる」

●身体は病気だが、心は病気ではない。心は健康なんだ。



過日、ゲストとして、外ヶ浜町中央公民館元館長記田桂子さんと協同組合タッケン理事長川嶋勝美さんエフエム青森のスタジオにお招きして、緊急対談「がんと共に生きる」として、お二人のがん体験について対談していただいた。ともにすい臓がんのステージ4を宣告され、その闘病体験を語っていただき、そのエッセンスをお届けします。多くのがん患者が闘っています。お二人のなまなましい貴重な体験を読んで、聞いてください。

記田さん

昨年2月9日悪性すい臓がん判明3月2日ステージ4余命3ヶ月と宣告されました。弘前大学医学部附属病院で先生の説明を受けて息子と姉が泣いていた。自分は泣かなかったが、これからどうやって生きていけば良いのかという思いが浮かんできました。身体がだるくて貧血気味になり、食欲がなくなり、10キロやせてしまい、元気もなくなりしましたが、食べることが生きることと考えました。余命3ヶ月が11ヶ月になって、二日二時間一分を生かされていることに感謝するようになりました。

川嶋さん

12年ほど前に、すい臓がんステージ4余命7ヶ月と宣告され、胃・脾臓・すい臓・胆嚢・十二指腸・胆管の6つの内臓を緊急手術。特に脾臓は全摘出、胃は3/4摘出しました。抗がん剤を月に3回、5年間続けました。この間は不安との戦いでした。経過観察し、10年を過ぎまして寛解という状態です。

オンエア エフエム青森 2019年2月17日 AM8:00~8:30

この番組はいきいき健やかラジオ第177回としてATVいきいき健やかWebでいつでも聞くことができます。

いきいき健やか 検索

